

事務事業マネジメントシート(令和 5年度実績と令和 6年度計画)

令和 6年 8月22日更新

事務事業名		選挙啓発事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	1	自治の健康			所属部	選挙管理委員会	課長名	坂井竹志
	施策	1	市民参画によるまちづくりの推進			所属課	選挙管理委員会事務局	担当者名	野邑和伸、谷口大介
	施策の柱	2	地域づくり(まちづくり)活動機会の確保			所属班	選挙管理委員会事務局	(内線)	1 2 2 3
予算科目		会計一般	款2	項4	目2	事業連番10344	根拠法令	公職選挙法第6条 合志市明るい選挙推進協議会規約	
終了、開始年度		☐ 5年度で終了 ☐ 5年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	・明るい選挙の推進：公職選挙法第6条により、「選挙が公明且つ適正に行われるように、常にあらゆる機会を通じて選挙人の政治常識の向上に努める」となっており、常時啓発と選挙時の臨時の啓発事業を行っている。 ・常時啓発事業：明るい選挙啓発作品コンクールの募集(習字・ポスター)、新有権者への啓発、明るい選挙推進協議会委員による会議・研修、明推協委員による地域での啓発、広報紙及びホームページを通じた啓発、市内各小・中・高校生を対象とした選挙出前授業と模擬投票(主権者教育の推進)、選挙機材(投票箱や記載台)の市内学校への貸出し。 ・臨時啓発事業：市内スーパー等街頭における選挙時啓発(チラシや啓発物資の配布)、期日前投票所における投票立会人の公募。
【業務の流れ】	・明推協議会の開催 ・新有権者への啓発(啓発チラシの作成・配布) ・明るい選挙啓発作品コンクール①作品募集(小・中・高校へ依頼、広報紙やホームページでの周知)、②一次審査(市明推員が審査)③二次審査(県選管)④ポスターのみの審査⑤審査結果の伝達(入賞者)⑥表彰(二次審査入賞者のみ、県庁)⑦参加賞の発注⑧参加賞及び入賞者への賞状等配布⑨入賞作品を通じた啓発(広報紙等) ・選挙出前授業と模擬投票の実施①市内小中学校校長会で出前授業活用周知②出前授業希望校からの申込み③出前授業実施校との打合せ④選挙出前授業と模擬投票の実施 ・選挙時における街頭啓発①啓発チラシ、啓発物資の作成②スーパー等への事業実施依頼③明推協委員と協力して啓発を実施
【主な予算費目】	・報償費、需用費、役務費
【意見や要望】	・選挙が公明且つ適正に行われることは、これまでの活動により一応の成果が出ている。しかし、投票率については全国的に見ても、全ての選挙において、低落傾向にある。明るい選挙推進協議会活動においても、投票への参加呼びかけ、特に若年層の投票率は30%に満たないため対応を求められている。 ・新有権者やこれから主権者となる若年層にむけた主権者教育と啓発が今後の啓発の柱となると言われ、その対応が求められている。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動)	5年度実績(5年度に行った主な活動)(DO)	6年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
	市内小中高校への選挙出前授業の募集を行い、8校から依頼があり全て実施した。明るい選挙啓発作品コンクールを実施した。応募総数ポスター1262点があり、県のコンクールにポスター2点推薦した。アンケート結果では、1人1人の大事な権利であることがわかったなど選挙の大切さが理解できたとの声が多くあった。	明るい選挙啓発作品コンクール(習字・ポスター)を実施する。明るい選挙推進県民大会・講演会等へ参加する。市内各小中高校へ選挙出前授業の活用を呼びかけ、実施する。委員による啓発会議及び研修を行う。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 回	予算の主な増減の理由
→ ア 啓発活動の実施数		出前授業実施予定回数の増による、報償費(出前授業等謝金)の増
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等有権者	(単位) 人	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
		→ ア 選挙人名簿登録者数(3月1日基準)
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位) %	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
政治・選挙への関心を高め、違反のない明るい選挙の実現と投票率向上を図る		→ ア 直近選挙の投票率
*③成果指標設定の理由と 6年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ～ 年度 0

(2)各指標・総事業費 の推移		単位	3年度 実績(決算)	4年度 実績(決算)	5年度 目標(当初予算)	5年度 実績(決算)	6年度 目標(当初予算)	7年度 予定	8年度 見込	9年度 見込	
① 活動指標	ア回		9	9	5	8	5	5	5	5	
② 対象指標	アイ人		49,611	50,075	50,400	50,175	50,800	51,200	51,600	52,000	
③ 成果指標	アイ%		55.9	51.4	60	50.68	60	60	60	60	
投資 事業 入費 量	財源 内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	133	206	275	279	445	275	275	275
		(A) 事業費計	千円	133	206	275	279	445	275	275	275
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		人件 費	正規職員従事人数	人	2	3	3	3	3	3	3
	延べ業務時間		時間	400	405	400	769	400	400	400	400
	(B)人件費計		千円	1,564	1,541	1,593	2,800	1,593	1,593	1,593	1,593
トータルコスト(A)+(B)		千円	1,697	1,747	1,868	3,079	2,038	1,868	1,868	1,868	

事務事業名	選挙啓発事業	所属部	選挙管理委員会	所属課	選挙管理委員会事務局
-------	--------	-----	---------	-----	------------

2 評価の部 (CHECK)

*原則は 5 年度の事後評価、ただし複数年度事業は 5 年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 5 年度目標達成度評価	☐ 達成した ☒ 達成しなかった ⇒【原因】 新型コロナウイルス対策を実施しながら、選挙出前事業を実施することができた。コロナ禍の中での選挙執行で、期日前投票の積極的な利用の推進、新型コロナウイルス対策の実施を周知を行ったが、投票率が目標を若干下回った。
	② 6 年度目標達成見込み	☐ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☒ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 選挙出前授業や模擬投票を実施することで、政治への関心を高め、投票参加への呼びかけを行っている。これから有権者となる小中高校生に向けた主権者を育てる教育（出前授業・模擬投票）を地道に行い、投票率の向上を目指す、急激な投票率の向上は難しい。
有効性評価	③ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 選挙違反を無くし、投票率の低落傾向に歯止めをかけるため、引き続き、明るい選挙推進協議会と選挙管理委員会とが連携し、啓発活動を行っていく。国や県と連携し若者に向けた啓発事業を実施していく。また、これからは主権者を育てる教育を啓発の柱とし、将来有権者となる子どもたちへ選挙の重要性を理解してもらうことに努める。投票率を上げる特効薬は無いと言われているが、投票率の低落傾向を止めるための努力は継続して実施していく。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある⇒（具体的な手段、事務事業） ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 公職選挙法第 6 条に定められているとおり、選挙管理委員会の責務として引き続きこの事業を実施する必要がある。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 必要最低限の事業費（年 3 回程度の会議や活動）としているため、成果を下げずにこれ以上削減することは難しい。
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 市の明るい選挙推進協議会委員は、ボランティア委員であり、削減する余地はない。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 対象者は特定の受益者ではなく、市内全ての有権者とこれから有権者となる子ども達である。特定の対象者に偏っているわけではないため、公平・公正である。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 一般の市民から公募している明るい選挙推進協議会委員と法に基づく選挙管理委員会が連携して実施している。 また、自治会にも回覧や各戸配付を通じて啓発事業に協力をしていただいている。役割分担は適正である。

3 評価結果の総括 (CHECK)

啓発コンクール応募者、出前授業の実施校とも多数の参加を頂いており、選挙を知ってもらいきっかけづくりになっている。ただ、すぐに投票率向上に結び付くものではなく、継続的な活動が必要である。
--

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

<